

高齢者における照明と色彩について

大妻女大家政 ○塘 亜里佐 吉岡 徹

目的 我が国の高齢化は急速に進んでいる。高齢人口は1994年に全人口の14.1%になり、2000年には17.0%に急増すると見込まれている。老化そのものが避けられない以上、老化によって生じる機能低下を生活環境の向上（改善）によって補償するような考え方が必要になる。そこで私達は高齢者を調査し、その結果に基づき、快適な生活を送るための住宅照明及び、高齢者の好む服飾の色を考察し、提案する。

方法 照明と衣生活の色に関して、老人ホームや公民館、自宅を訪問し、60歳以上の女性30名を対象として、アンケートを行なった。

結果 生活空間の照明に関しては事故防止の為に、段差のあるところでの照明は特に明るくする。グレアを押さえるために、照度設計の段階で、隣接する空間同士の連続性を重視する。局部照明と全般照明による照度は、照度差が著しすぎないことが望ましい。衣生活に関しては、高齢者の安全性を確保できる衣服を着用する。